

地域と一緒に作る太陽光発電 -20年の歩み-

長野県南部に位置する飯田市は年間を通じて晴れた日が多く、日照条件に恵まれています。
2005年、公共施設や企業、住宅の屋根に市民出資を活用してパネルを設置する「屋根貸し事業」を始めました。
太陽光発電とともに歩んで20年。法制度の変化に対応しながら、発電所の保守管理の実績を積んできました。これからも地域の皆さまや企業、行政と協力しながら、おひさまの恵みを生かす発電事業に取り組みます。

2004年、おひさま発電所1号

NPO法人南信州おひさま進歩が寄付金を募り、飯田市内の保育園に「おひさま発電所1号」を設置



2005年、おひさまファンド開始

太陽光発電普及のため「南信州おひさまファンド」を募集、飯田市内の公共施設37ヶ所へパネル設置



2012年、メガさんぽプロジェクト

FIT制度を活用して「メガさんぽおひさま発電所プロジェクト」開始。広い屋根をお借りして分散型メガソーラーを実現



2021年 ソーラーシェアリング

ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を飯田市山本に設置。地元農業法人がネギを栽培中



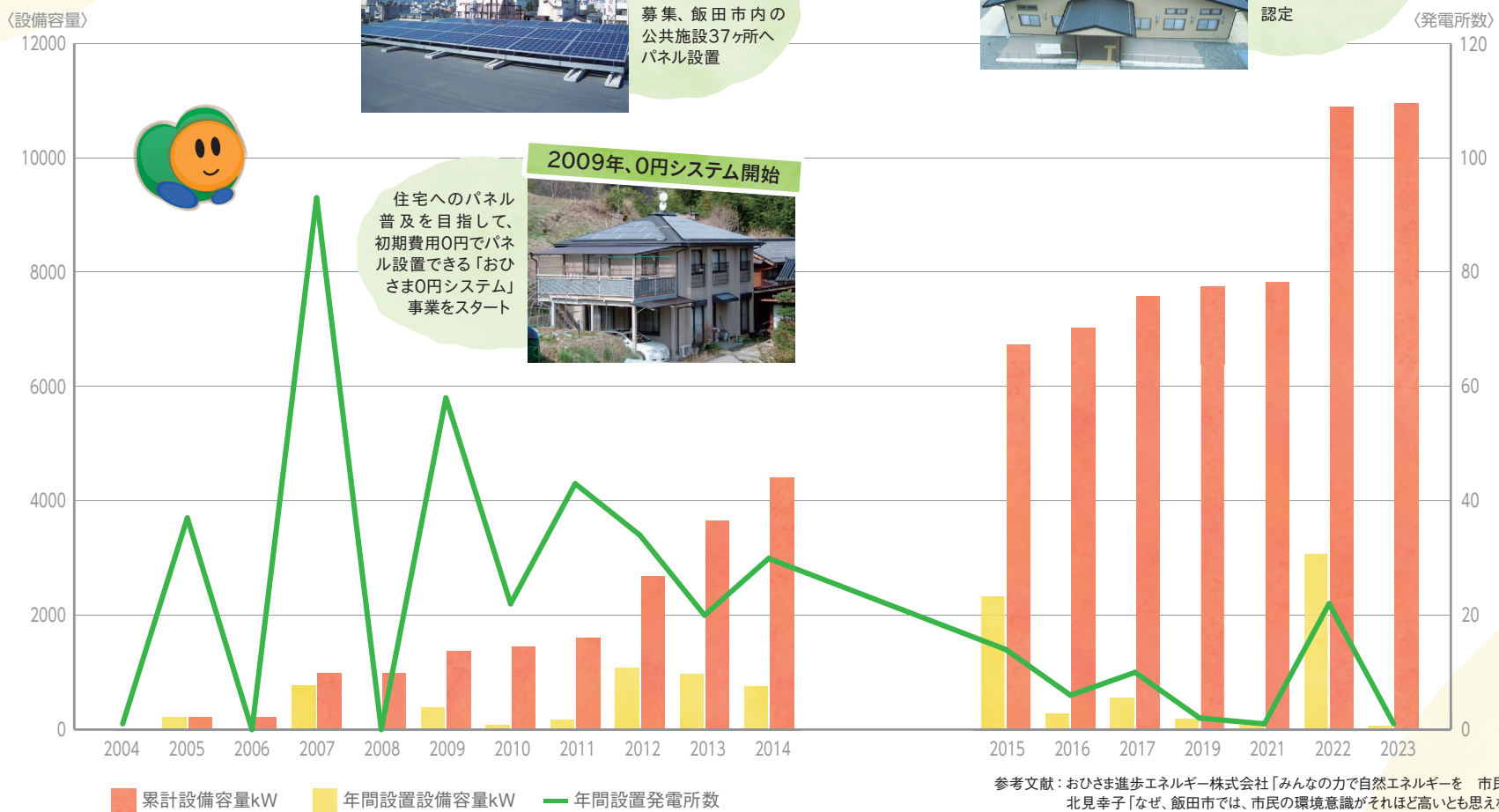
2014年 地域環境権条例第1号

駄科区コミュニティ防災センターのパネル設置事業が飯田市の地域環境権条例第1号に認定



2022年 オフサイトPPA事業

経産省補助事業でFITに頼らない発電所を、屋根や野立て、ソーラーシェアリングに分散して合計3MW設置

● 太陽光発電所数と設備容量

いま、おひさま発電所は長野県南部を中心に合計404ヶ所（設備容量11MW）まで増えました。発電所数、設備容量の歩みを見ると、民間施設の屋根へ事業を拡大した時期（2006年～）、住宅へのパネル設置を始めた時期（2009年～）に小規模な施設が急増し、2012年以降はFITの後押しから1ヶ所あたりの設備容量が大きな施設が増えてきたことが分かります。

参考文献：おひさま進歩エネルギー株式会社「みんなの力で自然エネルギーを 市民出資による『おひさま』革命」
北見幸子「なぜ、飯田市では、市民の環境意識がそれほど高いとも思えないにもかかわらず、おひさま発電が普及したのか？」
<https://ohisama-energy.co.jp/2022/12/23/enedai3th-k-paper/>